

1. 教育目標

耳鼻咽喉科の臨床を通じて疑問点を探し出し、文献を調べて解明されている点と解明されていない点を把握する。解明されていない点を検討するために、臨床データを蓄積し、基礎教室と連携して動物モデルを作成する。

2. 到達目標

下記の中の一つを研究して、耳鼻咽喉科疾患の診断・治療法に役立つ成果を得る。

- (1) 真珠腫性中耳炎に成因を探求し、手術法を開発する。
- (2) 前庭誘発筋電図 (VEMP) をめまい疾患への応用ができる。
- (3) 新しい耳管機能検査法を確立する。
- (4) 好酸球性副鼻腔炎の病態を解明する。
- (5) 嗅覚・味覚障害の新しい治療法を開発する。
- (6) 頭頸部癌に対する新しい化学療法を開発する。

3. 成績評価の方法と基準

成績の評価は、本学で定められた「成績の評価基準」に基づき、到達目標に対する達成度及び修得すべき基礎知識・技能の修得度により行う。

課題におけるレポート(30%)、研究成果の発表(30%)、口頭試問(40%)

4. 教科書・参考書

特に定めない。必要に応じて参考資料等を配布する。

5. 準備学習

予習としては、関連文献を検索し、知識を整理して授業・実習を受けること。(1-2時間以上)

復習としては、講義内容や実験結果をノートなどにまとめること。(1-2時間以上)

6. フィードバック方法

当該年度修了時に提出する「研究計画書」、又は「研究進捗・指導状況報告書」によりフィードバックを実施する。

(第1学年・昼間開講)

【耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学】

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
演習	研究経過報告と関連論文の抄読 (耳科・神経耳科学)	都築主任教授 美内講師 西村助教	月曜/4限	通年	4	カンファレンスルーム
講義	聴覚・平衡覚・顔面神経の 生理と解剖	都築主任教授 美内講師 西村助教	火曜/4限	半年	2	カンファレンスルーム
実験 実習	平衡機能検査	都築主任教授 大田講師	木曜/4,5限	通年	4	耳鼻科外来
実験 実習	頭頸部の生理学検査	都築主任教授 寺田准教授	火曜/3,4限	通年	4	耳鼻科外来

(第1学年・夜間開講)

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
演習	研究経過報告と関連論文の抄読 (嗅覚・味覚)	都築主任教授 任講師 伏見助教	月曜/6限	通年	4	カンファレンスルーム
講義	鼻副鼻腔および嗅覚・味覚の 解剖と生理	都築主任教授 任講師 伏見助教	月曜/7限	半年	2	カンファレンスルーム
実験 実習	嗅覚・味覚検査	都築主任教授 任講師 伏見助教	火曜/6,7限	通年	4	耳鼻科外来
実験 実習	前庭誘発筋電図 (VEMP) の 臨床的応用	都築主任教授 大田講師	木曜/6,7限	通年	4	カンファレンスルーム

(第2学年・昼間開講)

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
演習	研究経過報告と関連論文の抄読 (頭頸部外科学)	都築主任教授 寺田准教授	月/5限	半年	2	カンファレンスルーム
実験 実習	好酸球性副鼻腔炎の病態解明 と新しい治療法の開発	都築主任教授 齋藤助教 伏見助教	水/4,5限	通年	4	手術センター
実験 実習	真珠腫性中耳炎の成因と 治療法の開発	都築主任教授 美内講師 西村助教	水/1,2限	通年	4	手術センター

(第2学年・夜間開講)

種別	内容	担当教員 (2名以上)	曜日/時限	期間	単位	場所
演習	研究経過報告と関連論文の抄読 (鼻科学)	都築主任教授 齋藤助教 伏見助教	木/6限	半年	2	カンファレンスルーム
実験 実習	頭頸部癌に対する化学療法 の開発	都築主任教授 寺田准教授	金/6,7限	通年	4	カンファレンスルーム
実験 実習	嗅覚味覚障害の原因究明と 治療法の開発	都築主任教授 任講師 伏見助教	水/6,7限	通年	4	カンファレンスルーム